

全面核軍縮をめぐって
第25回 バグウォッシュシンポジウム
記念講演会



核兵器全廃 忘れてはならぬ

1977.9.3 毎日

核の恐怖、強く訴え

バグウォッシュ・シンポジウム記念講演

【京都】核兵器の廃絶を含む完全軍縮をいかにして進めるべきか―をテーマに、京都国際会議場に十カ国の代表的科学者が集まって五日間にわたって討議した第二十五回バグウォッシュ・シンポジウムの記念講演会（バグウォッシュ・シンポジウム組織委員会主催、財団法人湯川財団後援）が、二日午後六時から京都市中京区の一ツ橋ビル六階ホールで開かれた。写真。

「ラッセル・アイニシュタイン宣言の目的の意味」W・エフ・シュタイン氏（カナダ・軍縮問題）が「核危機を打開するには」の演題で講演した。

ロートフ教授は現在の核を主体とした軍縮競争を憂い「現状は決してハッピーとは言えないが、このときこそバグウォッシュの目的達成に科学者は努力せねばならぬ」と科学者の責任を強調し「核兵器全廃を忘れてはならない」と呼びかけた。またエフ・シュタイン氏は核抑止論の危険性を取り上げて完全軍縮の重要性を強調し「核の恐怖を強く訴えた」。

c092-17-011